環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.９３
編　集　環境パートナーシップちば
代　表　桑波田　和子
事務局　千葉市中央区中央港1-11-1
(一財)千葉県環境財団業務部
環境活動支援課
電　話　043－246-2180
ＦＡＸ　043－246-6969

環境学習指導技能向上講座　終了しました

コーディネーター　桑波田　和子

平成 25 年度千葉県環境学習指導技能向上講座は、９月１日～毎週に日曜日に開講し、９月 22 日に終了しました。

講座概要は、以下のとおりです。

①最新の環境問題・ESD について
講師：林　浩二氏（県立中央博物館）

②ファシリテーションの基礎・活用と応用（２日間）
講師：鈴木まりこ氏（NPO 法人日本ファシリテーション協会フェロー）

③情報を読み解く力と情報を発信する力
講師：吉野　真佐代氏（日本財団 CANPAN 運営事務局）

受講人数は、講座により変動がありましたが、受講生が多い講座は 25 名でした。また、いつもは男性が多いのですが、今回は女性と男性の割合は半分で、バランスが取れていました。

各講師は、内容も豊かに熱意を持って対応していただき、受講生も大変熱心でした。特に、15 日は台風の余波の雨でズボンや靴が濡れて、交通事情も不安な中、開始しましたが、予定の終了時間まで行いました。この熱意に、事務局としても元気をいただきました。

２日間設けた、「ファシリテーション」の鈴木講師は、ファシリテーション力を身につけるために、細やかな配慮、お互いの立場を理解する心構え等適切な事例を通しての講座でした。受講生にとり、とても有意義な時間を体験していただけたと思います。

講座の主旨や講師・受講生の間を取り持つコーディネーターの役割も重要だと実感しました。

最後に、講座卒業生のご活躍を、大いに期待しています。

発展コースも募集開始

「学べる！ 使える！ 体験できる！　環境学習プログラムづくり」

あなたの地域で起こっている環境問題を少しでも改善するために、課題を整理し、それを解決するために何を行動したら良いのか考えます。そして、市民や子どもたちが自分で考え，行動するためのプログラムを組み立てる実習を行います。

実習で作ったプログラムを，講座修了後にすぐに役立てられる実践的な講座です。

講座は以下の５日間（すべて日曜日）で，10 時から 16 時 30 分です。受講料は無料。会場は、第 1、3、4、5 日が千葉市美浜文化ホール、第２日は千葉市文化センター会議室です。

◆第１日 11 月 24 日（日）
　千葉の環境課題、アイスブレイキング、など。
◆第２日 12 月１日（日）
　プログラムの組み立て方とグループづくり
◆第３日 12 月８日（日）
　プログラム作り
◆第４日 １月 12 日（日）
　プログラム中間発表
◆第５日 １月 19 日（日）
　プログラム発表，学校での環境学習

受講のお申し込みは、当会 HP、E メール、FAX または郵送で。詳しくはチラシ、HP をご覧ください。

・「環境パートナーシップちば」の HP
　http://kanpachiba.com/
・E メール：
　moushikomi_hatten@kanpachiba.com

お問合せ：講座事務局（090－8116－4633）
（環境学習チーム　小倉久子）

環境学習支援活動報告
～環境学習バスツアー　親子で水環境に触れてみよう～

１．企画の概要

日時　平成23年８月２日（金）９時～16時
主催　浦安市環境保全課
学習場所　柏井浄水場・花島公園（千葉市花見川区）
参加者　25名　（浦安市在住の小学校３～６年生、保護者４名）
学習内容　浄水場見学・花島公園を散策し自然環境に触れる（環パは後半を担当）
支援スタッフ　主催者側　浦安市３名／市民団体　環境パートナーシップちば（以後環パと略称）会員６名（花島公園での自然観察を担当）

２．花島公園の活動の報告

花島公園は、花見川沿いの水辺公園として平成７年から整備が行われているが、今回の企画の目的は、この半自然環境の中で、子供達が日頃なじみのない植物や生き物、水、空気、においに触れ、自然を体感することにより、更に自然を好きになる子供を増やすことだと理解した。

その方法として、あらかじめ作られていた５人１組の班に１人の環パ会員が付き、子供達を誘導し珍しい自然を発見させ、考えさせ、記録させ、最後に発表会を行った。これを13時から16時まで行ったのである。

散策順序は、まず延長300m程にわたる人工せせらぎと噴水池と、その周辺の水辺や林で自然探しをした。人工せせらぎと噴水池自体は循環水路で管理が行き届いているため自然に乏しいが、水辺や林では蝉の抜け殻が多く見られ、からすの羽、水鳥、蝶々、きのこなどが発見された。

このせせらぎの末端に八つ橋のある人工池があり、ここでは亀、トンボ、鯉、水生植物、水鳥が豊富に見られ、子供が急に元気になる。

その後、花見川の散策となるが、この水辺には近づけないため橋の上で、花見川の建設の由来を聞き、また水面の状態や亀や魚を観察した。この地点は最も谷が深いため緑豊かな川の姿が子供の心に焼きついたのではないだろうか。帰りは、概ね来た道をまた自然発見をしながら帰った。

３．支援スタッフの楽しみ

子供達の行動から様々な子供の性格が見えてきて、これが楽しい。まじめで賢くリーダーシップのある女の子、ダジャレが得意で頭の回転が速い男の子、探究心が強く抽象的な思考ができる男の子、など個性の強い子がいる一方、傍観者に終始する子もいる。こんな子達の将来像が浮かんで来たりする。　（文責 牧内弘明）

公民館講座報告

今年の夏休みの千葉市公民館講座は、
・７月27日：みやこ図書館（段ボール工作）
・８月１日：犢橋公民館（エコキャンドルづくり）
・８月27日：松ヶ丘公民館（ふりふり石鹸）
の３講座の依頼を受けて、実施してきました。どの講座も元気な子供たちを相手に、楽しく行うことができました。以下がその報告記です。みなさんも、ぜひ環境学習チームに入って、一緒に講座をやりましょう！

（環境学習チーム　小倉久子）

段ボールで恐竜を作る！　ーみやこ図書館ー

みやこ図書館は、環パが初めて依頼されたところですが、実は図書館側も初めての企画として千葉市環境教育講座の制度を利用してみたということでした。

段ボール工作の講師として経験があるのは広田ご夫妻。今回はご主人の“伸ジー”が講師になってくださり、松橋功さんと川島謙治さんがスタッフとして参加しました。

作ったのは恐竜のティラノザウルスとトビケラトプス（のどちらか１種類）。あらかじめ、切り取り線を描いておいた段ボールからパーツを切り抜き、糊で貼り合わせて出来上がりです。

参加者は小学１年生から６年生の20名で、低学年が17名､女子が14名という内訳でしたが、小さい子もご父兄の方やスタッフに応援してもらいながらがんばり、女の子たちも立派な恐竜が作れて大満足の様子でした。

講座の最後に行ったアンケートの結果を館長さんが送って下さったのですが、

・むずかしかったけどたのしかった。
・たのしかったです。またやりたいです。
・ちょう楽しくて２こ作りたかった。
・きょう、ティラノザウルスができてうれしかったです。

など、読んでいてとても嬉しくなる感想が並んでいました。

段ボールの恐竜たち（左：トビケラトプス 右：ティラノザウルス）

エコキャンドルづくり 犢橋公民館

８月１日は、犢橋公民館でエコキャンドル作りを行いました。この公民館からは毎年依頼をいただいているのですが、特にエコキャンドルが気に入っていただけたようで、今年で３回連続のエコキャンドルづくり講座をやらせていただけました。

講師は松橋功さん、スタッフは中村明子さんと小倉が担当しました。

エコキャンドルというのは、廃油を油処理剤と混ぜて空き瓶の中で固めて作ったローソクで，使わなくなったクレヨンを一緒に溶かし込んで色をつけると、廃油がとてもかわいいローソクに変身するのです。

作り始める前にまず、グループごとにローソクの色を決めます。みんなで４つの色とその順番を決めるのですが、時として、合意形成がなかなか困難なこともあります。幸い、今年の子どもたちはほとんど知り合いの女の子だったせいもあって、円満に意見が一致したようです。

この講座は，油を温めたりクレヨンを溶かすのに卓上ガスコンロを使うため，たいへん気をつかうのですが，今回も無事に安全に作業ができました。

できあがった作品は、夏休みの宿題になるだけではなく、これをちゃんと使わなければ、エコ！ではありません。最後にそのお話をして、おしまいになりました。

「ふりふり石けん作り」実施報告

８月２７日（火）に千葉市松ヶ丘公民館で廃食油から石けん作りをしました。スタッフは桑波田さん、井上さん、五十嵐の３名です。公民館に近い松が丘小と大森小の３年生から６年生、１１人が参加しました。夏休みらしく、こんがりと日焼けした子が多かったです。

石けん作りの前に環境学習。桑波田さんが、千葉市の「焼却ごみ１/３削減」キャンペーンについて触れました。ごみを１/３減らして、新港、北の２つの清掃工場だけで処理できるようにするという話です。「へらそうくん」のイラストを見せると、見たことあるとの声が。続いて五十嵐から３Ｒについて、リデュースが一番大切ですよとの話。

頭を使った後は体を使う番です。「道化師のギャロップ」など運動会の定番音楽をＢＧＭに、鹸化のため２０分間、思う存分ペットボトルを振りました。みんな笑顔、ノリノリでした。今回取り上げた「ふりふり石けん」は、オルトケイ酸ナトリウム２５g をペットボトルに入れて用意しておき、そこに水５０ml を入れ混ぜ透明になったところで、廃食油１００ml を入れて２０分間振り混ぜるというもの。ペットボトルの中だけで薬を扱うため危険が少ないのです。静置して２週間頃に容器から取り出し、約２週間で乾燥し固形せっけんが出来上がります。

振り終わって一息ついたところで、井上さんが家で実践しているエコな取り組みのお話。食器についた油はふき取って、汚れのひどいものだけ石けんで洗いましょうなど。

石けんづくりを家でもやってみたいという子が何人かいましたが、薬の用意が必要なので大人の協力が必要です。この講座、親子参加にした方が良かったかなと、ふと思いました。（文責五十嵐　実）

「もっとやさしい浦安を目指して」

―浦安市中央公民館の事業支援組織に環パが参画―

そもそもコトの起こりは、環境学習チームの Ｉさんがネットで「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」の募集を発見して、事務局に知らせてくれた、というところから始まります。まず浦安市の公民館の知り合いに声をかけてみたところ、たまたま中央公民館でこの件について前向きに検討していたので、一緒にやろう、ということになり、採択されました。

事業の大まかな内容は、次のとおりです。

事業名：「もっとやさしい浦安を目指して」

事業委託期間：委託を受けた日から平成 28 年３ 月まで

選択テーマ：若者の自立・社会参画支援、地域復興支援、その他の地域課題解決支援（環境問題）

支援プログラム実施組織：環境パートナーシップちば（小倉を委員にしてあります）、浦安市環境学習コーディネーター（広田さん）、浦安子育てミーティング、ははこのじかん、文化交流サポート浦安、浦安市退職校長会

支援プログラムの実施内容・実施方法：

⑴ 各種講座の開催

①子育て支援プログラム　（略）

②環境学習プログラム

- もっと地域住民に広げるための講演会
- 主婦層を中心に「しゃべり場」的な集まり
- 若者層を対象として、自分たちにできる小さなことの実践

⑵ 地域人材の育成と組織作り

地域の人材を掘り起こして養成・パワーアップする講座を公民館が行う。最終的な形として、地域の協議会・連絡会的な組織・活動づくりを行う。

環境学習プログラムとしては 11 月からさっそく「もっとやさしい浦安を目指して」～浦安の魅力発見～「食」「暮らし」「エコ」私たちにできること＞ という ４ 回の連続講座を開催します。今決まっている講師だけでなく、当日スタッフなどで環パちばの環境学習チームが積極的に関わっていく予定ですので、どうぞよろしくお願いいたします。また、最初のきっかけを作って下さった Ｉさんに感謝します。

（環境学習チーム　小倉久子・広田由紀江）

ELCo の会が「ＥＳＤ環境教育２０モデルプログラム」の実証事業に参加

ELCo の会　横山清美

ＥＬＣｏの会とは、千葉県内の環境学習コーディネーターの集まりです。

県と NPO の協働事業「環境学習コーディネーター人材育成・活用検討事業」に参加した市民が設立。環境学習コーディネーターの活用と普及を図り、県内における環境学習を、よりよく推進することを目的として活動しています。団体立ち上げから環境パートナーシップが団体の事務局を担っています。

平成 25 年度環境省が実施する「ＥＳＤ環境教育２０モデルプログラム」の実証事業の千葉地域事務局をＥＬＣｏの会が担うことになりました。

この事業は、『平成 26 年度の「ＥＳＤに関するユネスコ世界会議（岡山、名古屋にて）」の主催国として、模範的な人づくりの取組を進める必要があることから、持続可能な地域づくりを担う人材づくりの先進地域を速やかに形成することを目的として、ＥＳＤの視点を取り入れた小中学生向けのモデル的な環境プログラムを作成する。』です。全国モデル２０のプログラム(「平成２５年度 ESD 選定されたプログラム一覧」http://www.geoc.jp/esd/program/ 参照）を基に、都道府県ごとにＷＧを設置した上で、選定されたプログラムを教育現場等において実証するものです。

具体的には、関東ブロック実行委員会の参加、WG にて地域性を踏まえたＥＳＤプログラム作成、学校等で実施、WG で検証する事業とともに、ＥＳＤの普及・啓発業務、ＥＳＤの理解等に関する調査業務（アンケート）を千葉地域事務局が担います。

千葉でのはじめの事業として、ESD の普及・啓発目的で９月 28 日（土）に「エコメッセ 2013in ちば」“スクール環境メッセ”（国際会議室）内にて、「ＥＳＤ20・総選挙」企画で全国２０プログラムをパネルにして、環境教育コーディネーターがプロググラム「おすすめポイント」をガイドしました。「これはやってみたい！」と思うプログラムを選び投票していただきました。「千葉県ではプログラムができるの？秘訣をゲストに聞いちゃいます！」としてゲストティーチャーの石田好弘先生（足立区立梅島小学校副校長）と幕張ベイタウンにエコパークをつくる会からお話を聞きました。

今後、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

「外来植物の防除を農村協働で！2013」活動報告

水土里ネット印旛沼　髙橋 修

私たち農業、水土里ネットは、米作りや、水路・ポンプ場など、営農・管理の阻害要因となる外来植物を負なる地域力として、平成 25 年６月 30 日、西印旛沼に面した佐倉市臼井田干拓の農業用排水路で、水面を覆い尽くしたナガエツルノゲイトウを、農村協働参加者 182 名で防除いたしました（編集者註 環境パートナーシップちばからも２名参加）。この水路は、周辺の田んぼや佐倉市臼井地区の治水の要、臼井第二排水機場に導水する役割を持っていることから、ナガエツルノゲイトウの異常繁殖や漂流する植生で、流水の阻害やポンプ場への漂着が発生すると、農業のみならず生活環境への影響も大きいことから実施したものです。

防除当日の天気は幸いの曇り空、それでも熱中症や水中作業での危険を心配しつつ、約７４０ｍの区間で推定６６㎥(当日ストックした状態で)のナガエツルノゲイトウを防除することができました。なお、特定外来生物の防除であることから、下流域に流出防止のオイルフェンスを設置したことはもちろん、防除の確認・認定や推定６６㎥のナガエツルノゲイトウの処分（ブルーシートで完全に蔽い、枯死させる）は、印旛土木事務所の協力を得て、万全な体制で行ったことをご報告したいと思います。

印旛沼地区でのナガエツルノゲイトウの根絶は、すでに不可能なレベルにあるとも言われていますが、「知るに始まり、異常事態を共有し、コストを掛けずに拡散を防止する」方法の一つとして、また「協働の時は自然と遊ぶ心を持って」を農村協働の理念として、今後とも取り組んで参りたいと思います。

現在…「ナガエツルノゲイトウ」を防除したことで、水面を見ることができるようになりました。しかし、水面が赤く見えます。「アゾラ・クリスタータ」（アカウキクサの一種　環境省の特定外来生物）　が繁殖しているのです。これに続き「ホテイアオイ」が勢力を伸ばしています。

終わりなき農村協働…

水面がほとんどナガエツルノゲイトウに覆われていた水路は‥

すっきり、きれいになりました！！

ナガエツルノゲイトウ　Q&A　（その３）

Q：今までいろいろ教えてもらったところでは、ナガエツルノゲイトウって、ものすごく悪くて、どうしようもないみたいだね。これが生えていることで何か良いことはないの？

A：うーん、良いことは・・・。
そうだなあ。水辺でナガエツルノゲイトウが群生すると、浮島のようになってしまうけれど、水面下では、それが魚やエビや動物プランクトンの隠れ家になって、いろいろな生き物が増えるというのは、良いことかもしれないね。
もし、そこそこの繁殖力ならば、そういう形でよい生態系に組み込まれることができるかもしれないけれど、現実はそうは甘くない。

Q：平和的な共存はむずかしい？

A：ことしの６月 30 日にナガエを駆除した印旛沼の水路なんだが、この写真は７月 28 日に同じ場所で撮ったんだ。あんなにがんばってきれいに取り去ったつもりだったのに、ひと月たらずで元に戻ってしまったのを見たときには、本当にがっくりきたよ。
さらに、低地排水路野土手の上に生えている植物のほとんどが、なんとナガエツルノゲイトウだったんだ。すでに陸上でもすっかり主導権はナガエに奪われているのを見て、平和的共存なんてありえないと痛感したね。　（小倉久子）

「正しく知ろう放射能～千葉県内の環境放射能について～」に参加して

ＮＰＯ法人八千代オイコス　小原　翔

第 58 回環境パートナーシップエコサロンで標題の勉強会が、８月２３日午後６時から、千葉市ビジネス支援センター(きぼーる)で、開催されると聞き、八千代オイコスのメンバー数人とともに参加させていただきました。

八千代北西部にある「花輪川」は桑納川から新川を経由して印旛沼に注ぐ小河川です。

我々はこの川の水質や景観を保全するとともに、毎年夏休みには近隣の子供たちを集め、「川の学校」を開催していました。ところが、一昨年の 3.11 の原発事故以後、千葉県内でも場所により放射線量が高い所があるという情報が伝わってきました。八千代市から放射線量計を借りて測定したところ、花輪川河川内の特定の場所から環境基準値を超える線量が検出されました。やむなく昨年は「川の学校」を中止することにしました。本年は屋形船から印旛沼の見学や、川には入らない方法で花輪川の勉強を行いましたが、川で遊びたがっている子どもたちの姿を見るのは可哀そうな思いを禁じ得ませんでした。

我々は今まで放射能に関しては全くの情報不足、知識不足でしたので丁度良い機会とばかりに参加させていただきました。

千葉県環境研究センターの井上智博先生からは、現在県内で問題になっている放射性物質、主にセシウム 137 のこと、物が持っている放射能の強さ（ベクレル Bq）、（私たちが）受ける線量（シーベルトSv）のこと、何故、環境基準値が 0.23μ Svなのか、一般の自然界では１年間に人はどの位の放射線量を浴びるのか、人が生涯に受ける放射線量はどの程度なのか等のお話。また藤村葉子先生からは調査資料を基に「放射性物質は水の流れと共に移動する。」など非常に興味深い話の数々を聞くことができました。

事故当時の風の流れやその後の雨水の流れなどによって放射線量の多いホットスポットになってしまっている場所が県内にも見受けられる。

放射性物質や放射線量の数値を一概に恐れるのではなく、正しい知識と情報を学んで正しく対処することが肝要であるとのことでした。

環パちばのエコサロンをきっかけに、八千代オイコスも放射能や線量の測定などについて学びながら調査していく所存です。

第59回　環境パートナーシップ　エコサロンへのお誘い

～食と農について考えませんか～

テーマ：農家は金がなくても不幸ではない ？
—食べ物もエネルギーも自給自足できる ？—

なぜいま、食と農なのか？
いまの農業の課題の中で、農業従事者の高齢化、増加する休耕地、農家の暮らし、非農業者の事業参入、食とエネルギーの地産地消、ネオニコチノイド等の農薬問題でもあり、命にかかわる問題などがある。講師の金親博榮氏は、１９９２年に谷当グリーンクラブを設立。以来、周辺の恵まれた自然環境を守り、稲作、畑作など農家として、林業についてもかかわってきている。また、２００２年から始まった里山シンポジウムの実行委員長として１０年の節目を迎えている。

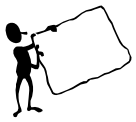
その体験、人的交流など、知恵袋的でもある。今回、農家でもあり、市民活動も熟知している講師にしかわからない問題意識について、限られた時間ではあるが、食と農、とくに農的暮らしなど、盛んな意見交換を期待している。また、「食と農」を考えるはじめの一歩にしたい。

日時：１０月１６日（水）１８時～２０時半
会場：船橋市男女共同参画センター（第一会議室）
〒273-0003 千葉県船橋市宮本 2-1-4
交通：JR 船橋駅から徒歩約 12 分、
京成本線大神宮下駅から徒歩約５分
講師：金親 博榮 氏
(NPO 法人ちば里山センター理事長)
参加費：５００円(資料代)
対象：関心のある方（先着３０名）
会場 http://www.city.funabashi.chiba.jp/shisetsu/shiminkatsudo/0002/0003/0002/p004026.html
申し込み・問合せ：090-8568-1957
e-mail：kato-ken@jcom.home.ne.jp
主催：環境パートナーシップちば
http://kanpachiba.com

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　18　―

おききしました！　この人・この団体

一般財団法人　千葉県環境財団紹介



千葉県環境財団は、昭和４９年１２月に県・市町村の環境行政の推進に寄与するための財団法人として設立され、その後、公益法人改革に伴い平成２４年４月１日から、「一般財団法人」として新たにスタートされた、創立３９年を迎えた環境分析の老舗的存在です。

業務の内容は、県や市町村の環境行政の推進や民間事業者の環境対策に関係する環境の調査分析等の業務分野から、環境パートナーシップちば（環パちば）や他の団体と大いに関係する環境活動支援事業や「ちば環境再生基金」の支援事業などの公益的な事業分野まで、幅広い業務を行っています。

◎ 環境調査分析等の関連事業

公共団体や民間からの水質、大気、騒音などのいわゆる典型７公害に関係する調査分析から、産業廃棄物やダイオキシン類の調査分析、土壌汚染対策法に基づく調査・分析などが主な仕事だそうですが、最近では福島原発事故に伴う公共用地の空間放射線量や食料品中の放射性物質核種精密測定など、目に見えない放射能汚染に対する県民、公共機関及び民間事業所からの測定依頼へ迅速に対応されています。

そのほか、地下水汚染等地質環境の調査や地震関連調査や道路・区画整理等の環境影響評価等総合的環境調査、環境アセスメント業務や自然環境調査（植物・動物・生態系）を実施しています。

財団は、環境調査・分析のプロフェッショナルであり千葉県を支える頼もしい存在ですが、私たち環パちばにも大いに関係する公益的な以下の仕事も手掛けて下さっています。

◎ 公共施設等管理事業（指定管理者）

手賀沼親水広場といすみ環境と文化のさとセンターの２か所の指定管理者として、関係団体等と協力し、手賀沼等の水質保全やいすみ市周辺里山の良好な自然環境と豊かな文化等についての資料の展示、講習会等の開催や調査・研究が実施しており、多くの県民団体に利用されているようです。

◎ 環境活動推進事業

地球温暖化防止活動推進センターとして、県・市町村、地球温暖化防止活動推進員、民間団体等と連携し普及啓発活動を推進するとともに、グリーンカーテン事業にも参加されています。

また、エコアクション２１の地域事務局とし、環境負荷の低減に努力されている中小事業者等の認証・登録を支援・推進しています。

◎ ちば環境再生基金等による助成事業

財団に設置されている「ちば環境再生基金」は、県民一人ひとりの自然環境の保全と再生に対する関心を高め、基金事業をより充実させようと、県内各地の環境イベント等で「ちば犬」君とともに、啓発・募金活動が実施されています。

県民・事業者等から寄せられた募金は、負の遺産対策・県民の環境活動支援・提案型環境再生事業の助成金として市町村や環境活動団体に活用されています。

なお、財団では、民間企業からの寄付金を基にした自然環境の保全などの環境保全活動への助成も実施しており、基金の助成事業も含め、財団の支援事業を受けている環パちばや他団体も多いのではないでしょうか。

今回、千葉県環境財団を紹介させていただきました。多岐にわたる業務内容に驚かされましたが、今後とも環パちばの団体の良きパートナーとして、共に活動していただけたらと思っております。

（文責：桑波田和子）

運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを
info@kanpachiba.com にお知らせください。
（広報部）

８月運営委員会

日時　８月２３日（金）１５:３０～１７:００
場所　きぼーる特別商談室

【報告】
- だより９２号発送
- 浦安市親子体験活動 8/2
- エコメッセ出展・協働創造市参加
- 千葉県環境審議会について
- その他

【協議】
- だより９３号　・エコサロン
- 桑納川のナガエツルノゲイトウ調査 10/8
- 印旛沼流域環境フェア 10/19
- 環境学習プロジェクト
- エコメッセプロジェクト

９月運営委員会

日時　９月１８日（水）１８:００～２０:３０
場所　船橋市民活動センター

【報告】
- エコメッセ出展者説明会・実行委員会８/２８
- 千葉県環境学習指導技能向上講座 開講
- 千葉県環境学習指導者養成講座導入コース開講
- 印旛沼流域環境体験フェア会議９/９
- 千葉市公民館講座８/２７
- ESD の活動

【協議】
- だより９３号
- １０月エコサロン 10/16
- 桑納川のナガエツルノゲイトウ調査 10/8
- 印旛沼流域環境フェア 10/19
- 環境学習プロジェクト
- エコメッセプロジェクト

お知らせ

第 11 回 印旛沼流域環境・体験フェア

日時：2013 年 10 月 19 日（土）11 時～15 時
（荒天時は 10 月 20 日（日））
場所：佐倉ふるさと広場向かい（京成佐倉駅から送迎バスあり）
出しもの：＊佐倉市一斉清掃　＊NPO/各団体ブース　＊市町ブース出展　＊農産物販売等　＊ステージイベント　＊流域キャラクター撮影会　＊E ボート体験　＊E ボート大会（要事前申し込み）　＊屋形船環境学習 など
詳細： HP「いんばぬま情報ひろば」をご覧ください。
問合先：印旛沼流域水循環健全化会議（県河川環境課）
043-223-3155　kawakan2@mz.pref.chiba.lg.jp

八千代里山シンポジウム

（平成２５年度里なび研修会 in 千葉県八千代市）
テーマ：光公害対策と都市近郊の谷津・里山の生き物ネットワークづくり
日時：１１月２日（土）　13：30～17：00
会場：やちよ農業交流センター
基調講演：矢島　稔氏（ぐんま昆虫の森名誉館長）
演題：生き物を見れば生命がわかる
事例報告・パネルディスカッション
詳細：里なび
http://www.satonavi.go.jp/seminar_h25/H25_03.php
主催：環境省自然環境局・八千代市
参加費：無料
参加申し込み：八千代市環境政策室
電話：047-483-1151（八千代市役所）

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：（一財）千葉県環境財団
業務部環境活動支援課 気付
TEL:043-246-2180　ＦＡＸ　043－246-6969
Ｅメール：info@kanpachiba.com
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
Ｅメール			
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人 1,000 円　団体 2,000 円　賛助会員 5,000 円		